

園だより 7月

わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。
みえるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存在するからです。

コリントの信徒への手紙Ⅱ 4章 18節

野の花々や歩道の脇に咲いた紫陽花が雨に濡れ、生き活きとしたその素朴な美しさに心とまされた日もあった6月。子どもたちがそれぞれに思いを添えた「ありがとうの気持ち」を言葉で沢山伝えたひと月となりました。

「花の日礼拝」ですべてを備えてくださっている神様に感謝礼拝を守った後の日、子どもたちが思い思いに大切に持ってきた一輪の花にお世話になっている近隣の方々などへ感謝の気持ちを添えてお届けをしました。

園の日常でも「ありがとう」の気持ちは様々な処・ときに感じ合いながら過ごしていきます。けれども友だち同士、または保育者と交わす「ありがとう」という言葉の少なさ。気持ちはいっぱいあるけれどお互い気心が通じ合っており、言葉に表さずとも伝わると思うが故でしょうか。もっと言葉を添えて心からの「ありがとう」を伝え合い過ごす日々であったら、私たちの願いでした。

そんな願いを子どもたちと考える良いときが与えられました。「お花届け」です。今年度はコロナ禍の中、大勢でお届けに伺うことに躊躇し、少人数でお届けをすることにしました。お届けをする方々を思い巡らすと、あの方、この方とお支え下さっている方々が思い浮かび、日頃なんて多くの方々にお支えをいただいていることか、と改めて感謝でした。年長児が訪問できる距離などを考慮し、お届け先を決めました。

当日、年長児たちは、各々の大切な花と年少児より託された花を持ちお届けをしました。その時、どの子も「いつも～ありがとうございます」と花と一緒に言葉で想いを伝え届けていました。とても温かい「ありがとう」の言葉でした。

それからの幼稚園の日々、何だか年長さんの「ありがとう」が沢山聞こえているように感じています。言葉で「ありがとう」を伝えることの大切な心持が心に落ち着いたからでしょう。勿論、年中さんも「ありがとうの気持ち」を大切な一輪の花に添えて幼稚園の事務の方々に心からお伝えしました。

6月は保護者の皆様にも本当に沢山、園の想いをご理解いただき、ご協力いただきました。心からありがとうございますと感謝を申し上げます。

1学期の最後の月である2週間ほどの7月、学年それぞれの「7月の園生活」の想いを大切に伸びやかな毎日を願います。よろしく願い申し上げます。

園長 駿河 幸子